

週報



2016 年 年頭標語

創造主、天の父母様に似た、
真の愛を実践する
天一国の真の主人になろう！



世界平和統一家庭連合

FAMILY FEDERATION for WORLD PEACE and UNIFICATION
(旧 世界基督教統一神霊協会)

加賀家庭教会

教会長：石垣 重広

み言

「罪は肉身を使って贖罪しなければならない」

12 良心は欺くことができません。自分の一生がすべてビデオテープのように記録されます。自分の番号が付いたその記録が霊界にあるのです。そこに行ってその番号を押せば、あつという間に分かります。生まれてからその時までが、あつという間に分かるのです。どうすることもできません。その記録を見るから良心が痛哭する程度に比例して、地獄と天国の境界線を出たり入ったりするということです。その世界はただむやみに、大ざっぱな計算によって動くのではありません。数理的な世界です。理論的に動くのです。神様は科学者の王です。天国は、自分勝手にするようにはなっていません。

13 私たちは、好きでも嫌いでも、死んでも蕩滅の峠を越えていかなければならない運命をもつ墮落の子孫です。それを否定することができません。この道を越えていかなければなりません。それを自分の一生で越えずに霊界に行けば、何百万年もかかるかもしれません。あの霊界には蕩滅がありません。そこは解放された完成圏なので、愛の波で満ちあふれているところです。蕩滅や再創造はありません。再生産もありません。そのような刺激がないので、一度固着すれば、それで終わるのです。神様はそのようなことを御存じなので、この地上にメシヤを送られたのです。個人、家庭、氏族、民族、国家、世界、天宙、神様という八段階の蕩滅の道が残っています。その道を一気に通過することはできません。それで、神様は歴史を通じて、個人蕩滅時代、家庭蕩滅時代を経て、イスラエルの四千年歴史を通じてキリスト教文化圏の世界的蕩滅時代まで導いてこられたのです。

14 霊界は愛が一番です。愛の主体である神様のみ前に行くことが、最高の願いです。それを知ったので、先生は一生の間、十字架を背負って血の汗を流しながら来ましたが、自分がどこに行くか心配していません。先生が行くところは、先生がよく知っています。人間は、霊界に行ってまた戻ってくることであればよいのですが、霊界というところは、一度行けば、再び戻ってくるできないようになっているので心配です。逝ったのちには帰ってくることはできません。そこで知って解決しようとするれば、億万年かかります。そこには、きれいに掃除できる刺激的な装置がありません。この世の中には不安定なことが多く、変動が多いのです。一日にも千態万象の変化があります。もまれることが多ければ多いほど、殻をたくさん脱ぐことができます。ところが、霊界には愛の刺激的な要素はありますが、罪悪を脱がせてくれる蕩滅的な要素がないので、数多くの歳月がかかるということです。

(天聖經 P734~735
地上の人生で位置が決まる霊界)

罪とは、サタンと相対基準を造成して授受作用をなすことができる条件を成立させることによって、天法に違反するようになることをいう。①原罪②遺伝的罪③連帯罪④自犯罪
(原理講論)

詩篇第40篇(ダビデの歌)

「数えがたい災いがわたしを囲み、わたしの不義がわたしに追い迫って、物見ることができないまでになりました。それはわたしの頭の毛よりも多く、わたしの心は消えうせるばかりになりました。」
(聖書)